

学生各位

長岡崇徳大学 学 長 森 啓
看護学部長 平澤 則子
教務委員長 近藤 ふさえ

生成 AI への対応について

現在、ChatGPTをはじめ、生成 AI の開発や利活用が急速に進展しています。AI の利活用は、利便性や生産性の向上などの利点がある一方、信頼性や誤用・悪用などの懸念やリスクも指摘されています。活用に関しては、以下の点について留意することが必要です。

○生成 AI の技術的境界（生成物の内容に虚偽が含まれている可能性）

大規模言語モデルを活用した生成 AI は、基本的に、ある語句の次に用いられる可能性が確率的に最も高い語句を出力することで、文章を作成していくものであり、AI により生成された内容に虚偽が含まれている又はバイアスがかかっている可能性がある。

○機密情報や個人情報の流出・漏洩等の可能性

生成 AI への入力を通じ、機密情報や個人情報等が意図せず流出・漏洩する可能性等があるため、一般的なセキュリティ上の留意点として、機密情報や個人情報等を安易に生成 AI に入力することは避けることが必要と考えられる。

○著作権に関する留意点

他人の著作物の利用について、著作権法に定める権利（複製権や公衆送信権等）の対象となる利用（複製やアップロード）を行う場合には、原則として著作権者の許諾が必要となること。AI を利用して生成した文章等の利用により、既存の著作物に係る権利を侵害することのないように留意する必要があること。

大学における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成 AI の出力をそのまま用いるなど学生自らの手によらずにレポート等の成果物を作成することは、学生自身の学びを深めることに繋がりません。本学では、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間性を醸成し、自己及び他者への思考を育むことを理念の一つとしています。

上記を踏まえて、本学では、以下を方針とします。

1. 成績評価に関わるものに関しての使用は認めない。

レポート、小論文、看護課題研究、定期試験、小テスト等において、生成 AI を用いて文章を作成することは認めません。使用が確認された場合は、厳格な対応を行います。但し、教員の許可があればその指示の範囲内で使うことは可とする。

2. 生成 AI を利用する場合は、出力された内容が正しいかどうか、必ず確認すること。

3. 個人情報の保護・情報の漏洩の観点から、使用の際は十分に注意すること。

4. 著作権等の保護の観点からも、使用の際は十分に注意すること。